

—小学六年生の部—

今井千鶴子 選

【最優秀賞】

流星が ぼつりと落ちる 丘の上

九龍 水野元直

(評) 九龍教室は良い俳句がとてたくさんありました。中でも元直くんのこの人真似でない感性は素晴らしいと思います。流星が、あつと思つた時に丘に消えた、ぼつりと「落ちて消えた。読者はめいめいその景色を心に思い浮かべます。

【優秀賞】

雨降 っ てあじさい光る朝日かな

シンガポール 杉祐希

(評) 夜の中に雨が降ったんですね。あじさいの花、それもまだ若々しい水色の花に雨粒が残っているのです。今日は雨も止んで朝から素晴らしいお天気。朝日があじさいに当たって、雨粒がキラキラ光っている。いい気分の朝、祐希さんは思わず深呼吸をしたのでしよう。これこそ写生の素敵な句です。

青色の 雲ひとつない 夏の空

香港 黒田カンナ

(評) 全く素直な写生句です。全くそのままです。一枚の画用紙を真っ青に塗って、おしまい。これで「夏の空」が表現されているんですね。夏の雲はムクムク湧き出る入道雲。とても白くたくましい雲です。そんな雲もない、かんかん照りの太陽がまぶしい青い空なんですね。

せみの声 心で思う 生きること

九龍 矢野元基

(評) 元基くんは、もう大人なんですね。蝉は七年間地中にもぐっていて、ある日、やっと穴から出てくると皮を脱いでそれぞれの唄を歌い、一週間で卵を生み、死んでしまう。その蝉の声を聞いていると「生きる」ってどういふことなんだろう、としみじみ思うわけ。大人の言葉で言えば無常観とか色々あるけれど、元基くんはすごいですね。

桜舞う 最後の言葉は ありがとう

九龍 山崎まなか

(評) 桜はパッと咲いて、パッと散ります。みんなに惜しまれて散るんですね。散るとき様子は本当にきれいです。もう少し咲いていければ良いのに、と思わせる桜。そしてみんなに、見てくれてありがとうと最後の挨拶をしているかのよう。この句はお別れの句とも考えられます。なかなか意味の深い句かもしれません。

